

酒々井町

郷土研究会会報

第114号

平成16年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部



私の想い

東伝院住職 菊地博之

このたび、歴史と伝統ある郷土研究会の原稿の依頼を受け戸惑いもありましたが、私が今日まで歩んできたことを振り返りながら、思いのまま書かせていただきます。

私が生まれたころは、畑には、落花生と麦と芋、田には稲が植えられた自然のあふれるごく平凡な田舎町でした。田んぼには、エビ蟹、ドジョウ、高崎川には、フナ、ウナギ、今では珍しいタナゴ、シジミなど沢山取れ、今思うと本当に懐かしい光景です。印旛沼はまだ干拓されない広い沼で学校から見る光景は、さながら水墨画を見ているようすばらしい景色でした。

昭和四十年代ごろから徐々に開発が進み、町のようにすも一変し人口も、

急増し、蒸気機関車からジーゼル車そして電化と目覚ましい発展を見ることができ、百周年記念事業がつい最近のように思い出されます。

街並みも近代的な建物が建てられ昔の良き酒々井がだんだん薄れていくのが残念に思う今日です。

しかしながら、郷土を愛する気持ちを持つ人々が沢山おられることは、大変喜ばしいことと思います。

ところで、町の歴史、文化を語るうえで欠かすことのできないのが寺の役割ではなかったでしょうか。

寺は単に礼拝施設ではなく、寺子屋から始まり学校の歴史には欠くことのできない存在であり、公民館や青年館が無かったころは、地域の文化施設や、集会施設としての役割を果たしてこられました。立派な公共施設がつぎつぎと建てられ、寺の存在が無くなりつつあります。また学校から宗教教育が無くな

り、寺社などに期待される公共の利益に資する役割がだんだん薄れはじめ、大きな伽藍と堂は、ガランドーになってしまった観がするのは私だけでしょうか。

私は、公共施設ではできない何かを求めている人たちに少しでも役に立てる役割を荷うことができないかと思ひ、徐々に寺を開放するよう勤めております。一つ目にはご詠歌の奉詠、二つ目には写経のすすめ、三つ目には座禅のすすめ、四つ目には



東伝院 本堂

茶道のすすめ等できることから会員をつのり、大勢の方々それぞれに活動いただいております。

私は禅宗の僧侶として、今何かと話題になっていいる座禅のすすめを是非、体験していただけるようお願いいたします。

座禅は専門施設だけですするのはなく静かな場所で座り、腹式呼吸で時間は二分か三分でも良いでしょう(椅子でも良い)。すると不思議に精神が安定し、平静になれるのです。

ですから何かを始める前にこの体験をすると平常心が保たれ、素直な心が現れてくるのです。

本来の座禅は何かを求めめるためにするのでなく、自分をまっさらにさげだす、素直な心になる座禅なのです。

神社仏閣は、今まで地域の自然や文化を守る大切な役割を果たしてまいりました。ですから寺にこられた方々には必ず何かを持って帰ってもらうよう勤めております。

郷土史講座を聴いて

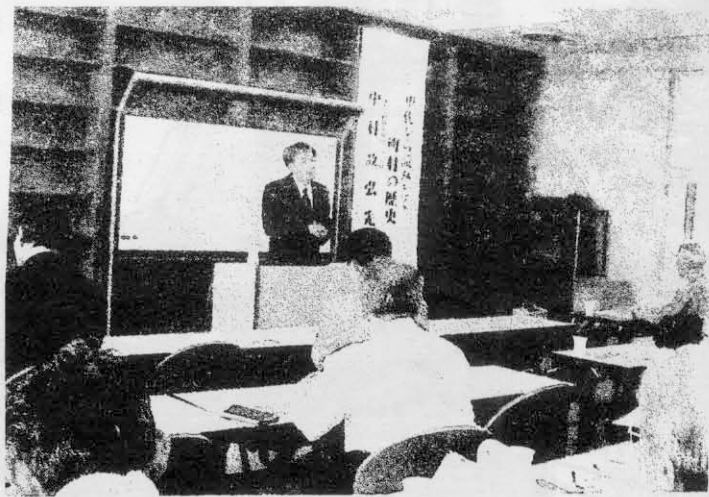
岡田 利光

今年のテーマは「現代から読み解く町村の歴史」。千葉県史料研究財団の中村政弘先生を迎えて町村合併の歴史やその他歴史の変遷を伺うことができた。

合併については一八八九年の明治大合併があり行政的、財政的体力を持つ町村の創出が目的で、千葉県は二、四五七あった町村が三五八になった。酒々井町については、一七〇戸の旧酒々井町と十三の村が合併して、七二〇戸の町が新しく誕生している。

その後一九五一年の昭和の大合併があつて、県内で合併が促進されたが、当町は地理的位置・交通・文化上の関連から、成田派・佐倉派に分かれて争論となり混乱したが、町長が交替して「和をもって信条」ということで残り、独立独歩の町として現在に至った。

それから五〇年を経過して平成の大合併が現在進められている。このほか、軍人輸送で佐倉に県内



最初の駅誕生・知事が鉄道連隊を誘致・木更津町長の海軍航空隊誘致・昭和十九年には県内に陸海軍飛行場が十六箇所もあつたこと・昭和二〇年春、米軍の九十九里上陸に備えて酒々井小に軍司令部が移設されたこと等、首都防衛のための千葉の重要性についての話など、近・中世史の永年のご研究の一端を伺う機会を得て、私にとって郷土に対する理解を一層深める意義のある一日でした。



「志村不動尊」を訪ねて

正井 和子

晴れ渡った六月四日、志村不動尊方面に向けて二十六名で出かけました。関東不動尊霊場十二番札所「宝勝山南藏院」そこが志村不動尊といわれるお寺でした。場所は京成、JR、営団地下鉄と乗り継いで、本蓮沼にあります。

志村不動尊は「南藏院」の末寺で、「命王山金剛院」の本尊であり、蓮沼村志村莊を代表する不動尊であった事から志村不動尊と呼ばれて人々の崇拜を集めていました。昭和二年、「金剛院」と「南藏院」が合併し、本尊と本堂を移したのが現在の不動堂で、厄難消除の不動様と信仰されています。

ご住職の法話は、『完全を望まず期待せず、何事も仏縁として起きた現象に感謝感激するよう』との事で、凡俗の身には沁み入るお言葉でした。会員の質問にも丁寧にお答え頂き、一同有難く同寺を後にしました。板橋では、日本の夜明け前、徳川家に義を以って殉じた新撰組の局長

近藤勇、土方歳三などの墓に参り、熱血の若人達に思いを馳せると共に、薫風過ぎる木陰で安らかに眠る方々に瞑目しました。

旧中山道の道標に、和宮を始め、古の人達の汗と涙の街道は、「道中はこの位だったろうか砂利道で難渋であつたらう」と話しながら帰路につきました。日本晴れのお天気に負けない様な清々しい気分でした。

番外で巢鴨へもお参りし、ご縁日で賑わうお婆さんの銀座の空気にも触れることができ、当世の老女のパワー(自分もその一人だが)に圧倒されてきました。

☆枝垂れ葉に日ざし柔らかか夏御堂 ☆み仏の力で蔽う御堂かな 法とくみ声身に沁みこみて

酒々井周辺の方言

- ◆ドーログジンサマ 道祖神
- ◆クチャメ まむし
- ◆ジジババ 春蘭
- ◆ジゴクソバ 冬枯草
- ◆こなんねえ 嫌だ
- ◆おっぺせ 押せ
- ◆アケル 赤い
- ◆アツペ・アンベ あるだろう
- ◆エガツペ いいだろう
- ◆ウッセ うるさい
- ◆エカイ 大きい
- ◆シツタラカ いっぱい
- ◆エグベ 行こう
- ◆ワツカケエ 少し食べなさい
- ◆アスブ 遊ぶ

郷土研日誌		
月日	内容	参加者
6・24	会報印刷	5
6・29	会報発送	20
7・2	道標展打合せ	18
7・3	史談会	12
7・17	道標展打合せ	14
7・20	道標展示作業	17
7・20~25	道標展	150
7・27	古文書を読む会	11
8・1	郷土史講座	66
8・20	編集会議	4
8・24	田無不動尊下見	4
8・25	研修部会	8
8・31	佐倉道(4)下見	3
9・3	運営委員会	16
9・3	編集会議	6
9・4	史談会	12
9・10	田無不動尊方面	18
9・14	道標資料作成	15
9・16	会報校正	5
9・21	編集会議	5
9・21	古文書を読む会	10



みちしるべ

青木 朝次

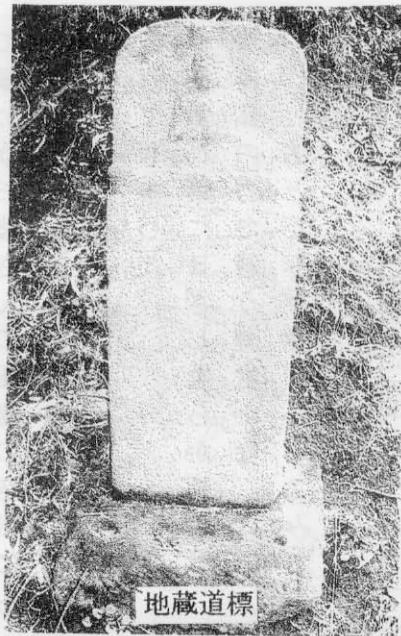
このたび酒々井町郷土研究会が道標調査を行いました。ふるさと酒々井町の良き時代に芝山仁王尊詣でや成田山、宗吾靈堂参拝にと旅する人々の道案内をして、安全に旅ができるように風雨風雪、極寒酷暑、昼夜を分かつた路傍の角に佇み旅往く人の安全を祈ってきました。

町中余す所無く四〇基を調べあげました。大きなものから小さなものまた自然石や成田山永代護摩本山の講中碑など巨大な物まで、徳川期から昭和の大戦頃まで数百年の歴史を物語っています。

道標にも色々の形があり、上部に仏像を浮き彫りにして、(一つは不動明王・今一つは地藏菩薩で二体とも酒々井町文化財に指定されています。)下部に行き先の村名を刻んだもの、別に一体尾上地区で如意輪観音の供養碑に町村名を刻んだものが発見されました。

初め道標は全部木製でしたが腐敗が早いので追々石製に替えられまし

た。高価な石製に替えるについても旅人のためという村民の並々ならぬ心遣いがあったことでしょう。江戸時代から佐倉道、芝山道、宗吾道が著名ですが、下総の大名達が参勤交代の道として利用した旧国道51号線は欠かせない重要道路でした。



地藏道標

近年道路拡張などで道標が散逸しつつあります。

先日調査をした四〇基をもとに公民館に於いて「酒々井町の道標展」を開催致しまして大勢の方に観ていただき好評を得ました。

どうぞ皆様におかれましてはこの貴重な道標をたどり、良き時代を想像され、その時代の人の気持ちになつて歩いて見てください。

申し遅れましたがこの道標調査にご協力頂いた教育委員会の方々、そして郷土研究会の運営委員の皆様方に厚くお礼もうしあげます。



追分不動道標

あとがき

長く続いた厳しい暑さとひどい残暑もようやく去り涼しさが感じられる季節となりました。

皆様お変わりなくすごされたことと思います。また暑い中でのアテネオリンピックでは日本の選手の方々の大活躍により三七個もメダルを獲得しすばらしい結果でした。

穏やかな秋であることを祈って、第一一四号をお届けします。いろいろと行事を計画いたしました。どうぞお気軽にご参加くださいますようお願いしております。

見学

案内

野草観察会



十月十四日(木)

小雨決行(代替日なし)

下台方面

タコノアシを観にいけます。

タコノアシは沼、河原、水田跡等の湿原に生える多年草です。直立した茎の先端がちょうど蛸の足のような形に分かれ、しかも吸盤のような格好で果実がついています。

「日本版レッドデータブック」では絶滅危急種の一つとして位置付けられ、「滅びゆく日本の植物五〇種」(築地書館)の中にもサギソウやフジバカマなどとともに紹介されています。

街道を歩く

十一月五日(金)

雨天代替十一月九日(火)

佐倉道を歩く 第4回(完)

今回で佐倉道歩きは最終回です。

歩道が狭くて危険ですが頑張つて約一〇km歩きましょう。

諏訪神社、金刀比羅神社の先から緩やかに下ると左に出羽三山の石碑が並ぶ梵天塚がありそこが宝鏡院の跡でもあります。道が平たんになり視界が開けます。右の麻賀多神社で一休みした後、少し行くと坂上バス停。左に妙見神社。急坂を下りJRの跨線橋を越えて高崎川を渡り296号バイパスを横断すると台地の下に着く。ヘビ坂の坂道を上ると堀田邸入り口で終着です。昼食後、希望者は堀田邸「千葉県指定の文化財」を見学して下さい。

日帰り見学会

十一月二十四日(水)

雨天決行

養老溪谷方面

黄から赤へと木の葉が色を変える紅葉の季節。(今年は夏の猛暑でちょっと色づきが心配です。)

爽やかな山の気を吸いながら、禅宗の古刹・水月寺へ。境内の鐘楼を拝観し、ゆつくりと山道を下って、いくつかの滝を眺め、さらに奥に進み水音に誘われるまま崖を下っていき雄大な滝を堪能します。戻ってきてバスで昼食の場所へ。

食後、粟又の滝へ。房総一の滝の迫力に圧倒され、マイナスイオンを一杯に浴びながら遊歩道を散歩し、程よい疲れと共に帰路に着きます。

名勝探訪

十二月 七日(火)

雨天代替十二月一〇日(金)

泉岳寺方面

不動尊めぐりは今回はお休みさせていただきます。

久しぶりに香煙揺らぐ赤穂浪士ゆかりの地、泉岳寺へ。討ち入りの日には早いです。

土産店の店先の陣太鼓を眺めながら泉岳寺をあとに、伊皿子坂を上ります。この坂は、明国人「伊皿子」と言う人が住んでいた所からこの名がついたそうで、周辺は大名屋敷が多く、立派な石垣が残っています。また、高松邸近くに大石良雄自刃之跡の碑があります。

少し先の天神坂を下ると、槍の名人として名を馳せた武将・加藤清正を祭る覚林寺があり、洞坂にはイギリス公使館だった東禅寺があります。ここまで来るとJR品川駅に近く、自由に昼食をとって家路に着きましょう。

郷土研行事案内

平成16年10~12月

	10月	11月	12月
史談会	休講	休講	4日(土)13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑭ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	10月 19日(火)13:30~15:30 プリミエール酒々井 「島田家文書」⑭ 講師：青木朝次会長	11月 16日(火)13:30~15:30 プリミエール酒々井 「島田家文書」⑮ 講師：青木朝次会長	12月 休講
野草観察会	10月14日(木) 小雨決行 代替日なし (問合せ8:30~8:50 犬島まで 集合時刻・場所 9:30 中央公民館 観察場所 下台方面 観察後、中央公民館にて昼食・勉強会をします 参加費 100円 弁当・飲み物各自持参 講師： 亀井 香久乃 氏 14:00頃解散予定		
街道を歩く	「佐倉道」④(完) 11月5日(金) 雨天代替：11月9日(火) 集合時刻・場所 8:10 JR酒々井駅 JR酒々井駅—佐倉駅—バス—神門…徒歩…諏訪神社・金刀比羅神社…梵天塚 ・宝鏡院跡…道標…麻賀多神社…妙見神社…へび坂…堀田邸・庭園(昼食) —解散 (徒歩約10km) 堀田邸は自由拝観 弁当・飲み物・敷物など各自持参。		
日帰り見学会	「養老溪谷方面」 11月24日(水) 雨天決行 定員 34名 町バス使用 申込受付： 10月15日(金)9:00~10:00 公民館ロビー 集合時刻・場所 9:00 中央公民館 参加費 2,000円(昼食付き) 公民館—水月寺・小沢又の滝—栗又の滝・滝めぐり遊歩道—昼食—公民館 (場合により一部コース変更あり) 16:30頃帰着予定 キャンセル：実施日3日前迄 青木朝次 皆様のご参加お待ちしております。		
名勝探訪	「泉岳寺方面」 12月7日(火) 雨天代替：12月10日(金) 集合時刻・場所 8:40 京成酒々井駅 京成酒々井駅—泉岳寺駅…泉岳寺…伊皿子坂…覚林寺…東禅寺…JR品川駅— 解散(自由昼食) (場合により一部コース変更あり)		